

令和5年度潮来保健所新型インフルエンザ等対策訓練を実施しました！

訓練の概要

- ◆日時 令和6年3月19日（火）14:00～16:20
- ◆場所 第一種協定指定医療機関（小山記念病院）
- ◆実施機関 潮来保健所、第一種協定指定医療機関（小山記念病院）
- ◆目的
潮来保健所管内における患者（疑い含む）発生に備えて、関係機関との円滑な連絡調整を図るとともに、患者発生時の役割分担及び対応の手順等を確認することを目的とする。
- ◆想定
(1) 状況設定
X国で発生した新型インフルエンザの大流行により、世界数か国に流行が飛び火し、WHOが緊急事態宣言を行ったことから、日本においても感染症法に基づく「新型インフルエンザ等感染症」に指定されている。国外からの輸入例のほか、国内伝播例が増加し、本県内においても患者確定例が複数確認されてきている状況である。
最大潜伏期間は10日間、感染経路は飛沫感染と接触感染とされ、患者（疑い含む）と2メートル以内にいた者を濃厚接触者と定義されている。
- (2) 患者設定
性別：男性 年齢：29歳 国籍：日本 居住地：潮来市 家族構成：単身
職業：会社員（営業職）、東京都内勤務 渡航歴：なし
基礎疾患：なし 予防接種歴：季節性インフルエンザワクチン接種済み
症状等：3月19日から39度台の発熱、頭痛、関節痛、咽頭痛、倦怠感あり 自力歩行可能
感染者との接触歴：発症2日前にインフルエンザ様症状のある同僚と勤務先で打合せを行っていた。
- ◆訓練の流れ 情報伝達及び実動訓練 ※模擬患者を活用し普段の状況を再現「患者発生の探知」から「適切な医療の提供」までの流れを実施
 - (1) 発熱外来受け入れ要請の連絡調整
 - (2) 発熱外来受け入れ準備、個人防護具装着
 - (3) 発熱外来の患者の誘導、受け入れ
 - (4) 問診、バイタル測定、迅速検査、診察
 - (5) 核酸増幅法検査用の検体採取・検体受け渡し、検体搬送
 - (6) 胸部画像検査
 - (7) 個人防護具脱衣
 - (8) 疫学調査
 - (9) 感染症指定医療機関への入院の受け入れ調整 等



訓練の実施風景



訓練で確認された事項

- ◆訓練の振り返りで出された主な意見
 - ・訓練を通して院内での問題点などを確認することが出来た
 - ・病院内や保健所内において連絡調整や患者対応する際には、普段からの職員間のコミュニケーションと連携体制が大切
 - ・情報伝達の円滑な方法や患者の状況に合わせた発熱外来の方法の検討が必要
 - ・患者が複数発生した際の体制づくりが必要
- ◆意見を踏まえた今後の実施
 - ・定期的な訓練の実施
 - ・情報伝達の方法の見直し
 - ・患者の複数発生時の対応に関する体制の確認

